

# 豊高だより



平成29年3月24日発行 通算43号

埼玉県立豊岡高等学校

題字：金子 絵美（書道部2年）

## 巻頭言

校長 鈴木雅士

### 一 はじめに

さくら満開です。大学や短大、専門学校、就職など、卒業生の本年度進路実績のひとつひとつを桜の花に書いて、職員室前の壁一面に張り巡らしていった「さくら掲示板」、本年度もあふれんばかりに咲き誇っています。そこには、卒業生312名の誇らしげな顔と足跡が映し出されているように、感動的です。

見ると、中には、目標の国立大学を見事に勝ち取った既卒生の花びらもあり、昨年度にはなかった桜も咲いています。一方、2号館2階の



二年次生のところにある壁には、「つぼみ掲示板」があり、花開く前の桜のつぼみに、二年次生一人一人の目標が記され張り出されています。一年後に花を開かせようと満を持しているようで、決意みなぎる若者が陸続と湧いて出てくるような豊岡高校を象徴していると思えてなりません。

### 二 三学期を振り返って

一月、インフルエンザの猛威に毎日が警戒態勢でした。三学期が始まって、日増しに増えていく罹患者数、十四日と十五日のセンター試験を乗り越えたものの、一月二十日には、ピンポイントで急増しかけた一年の1クラスを遂に学級閉鎖にしました。その後減少を続け、二月十三日に、ようやくゼロに至りました。感染症に対して

は、まだまだ気を許すことはできませんが、目に見えぬ敵ほど怖いものはない、うがいや手洗い、マスクの着用など、予防措置を励行していくしかありません。

二月、天候により順延した「駅伝大会」を十六日に行いました。近くにある狭山稲荷山公園内の周回コースで、1.2kmを全員が力一杯駆け抜けました。クラスの半分の生徒がロードレースの部で一斉スタートし順位を競いました。もう半分の20人が、襷をつなぐリレー、すなわち駅伝です。走るのが得意な人、苦手な人、足の早さや体力の程度に個人差がある中で、すべての人が全力を出し切ることができた距離と方式で、まさにクラスの総力戦になりました。



順位に関係なく、次の人に少しでも早く襷を渡そうとする強い意志を感じる皆の走りには心を打たれました。保護者の方々にも是非見てもらいたいと思います。

三月、高校入試を行いました。本年度の受検者数は、昨年度を上回り、募集人員の一・三三倍でした。人気が高くなることは大いに嬉しいことです、それだけ豊岡高校の教育が評価され期待されていることの表れです。関係各位のご支援に深く感謝するとともに、さらに身を引き締めたいかなくはと思う次第です。また同時に、仕方ないのですが、残念ながら入れない人も多く出ましたことに申し訳ない気持ちを持ちながら、四月の入学には、期待と希望を膨らませて、万全の準備をしていきたいと思

います。

### 三 終わりに

先日、英検の二次試験結果が届き、なんと、今までの倍以上の合格者数になりました。57人が受験し、2級に1人合格、準2級には、一度に22人が合格しました。英語力向上に向けて取り組みが、一層の広がりや深まりを見せてくれていることの表れでしょう。これから迎える新入生を含め、皆が、挑戦の気概を持ち、活発な部活動の中で鍛え培う精神力を土台に、芽からつぼみに、そして開花へと至るよう、また元気に頑張ってください。

## 年次より

### 『二年次に向けて』

一年次主任 井口正則

単位制4期生の一年次が終わろうとしています。年間の皆勤者（欠席・遅刻・早退・欠課がいずれも0）は132名（3月14日現在）でした。ちなみに一学期終了時点では255名。体調を崩しての欠席は仕方ない面がありますが、多くの生徒は1ヶ月程度の遅刻で皆勤者でなくなってしまうようです。ほとんどの遅刻は気を付けて生活していれば防げたはずですから、入学時より気が弛んでいないのでしょうか。また年間の成績優良者（評定平均4.0以上）は33名でした。一、二学期より少し増えてはいますが、他4期生は入学時点では成績や学力にあまり差のない生徒たちでした。一学期のうちはその傾向のままでも模試の偏差値でも差は拡大傾向にあります。また入学時に

上位にいた生徒がそのまま上位と  
は限りませんが、この一年で成績  
や学力を飛躍的に伸ばした生徒も  
少なくありません。

先日、「志望進路別講演会」で、  
卒業生の体験談を聞きました。

「四年制大学文系」の会場では、  
ある卒業生が勉強時間を「授業の  
ある平日で6時間、休日で12時  
間」と話していました。その勉強  
ぶりに敬服する一方で、今部活動  
を頑張っている一、二年次生には  
無理な数字と感じました。部活動  
引退後の「追込み」の時期だか  
らこそ、数字なんでしょう。期  
いっても、本校生は受験勉強に取  
り掛かる時期が遅い、というの  
よく耳にする事です。受験勉強  
は早く始めれば始めるほど良い  
とに疑いはありません。ではど  
うすればよいのでしょうか。

「手帳活用法」の講演で、高校  
生の7割が「時間をむだに使っ  
ている」と感じていることが示さ  
れました。それらの「むだに使っ  
ている」時間を活用することが勉強  
時間の確保につながります。起  
床時刻・勉強開始時刻・起  
「就寝時刻」の三点はきちんと固  
定されていますか。「スマホ」や  
「ゲーム」などに時間を空費して  
はいないでしょうか。春休みは次  
の年次への準備期間ですが、生活  
が不規則になりがちです。きちん  
とした計画を立て、それを確実に  
実行することが求められます。

## 『努力に勝る天才なし』

二年次主任 橋本克洋

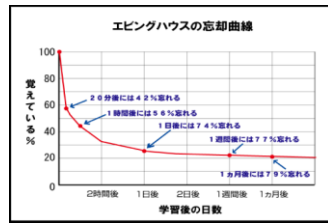
TBS系列で放送されたドラマ『下  
剋上受験』をご存知でしょうか。原作  
は中卒の父と偏差値41の娘が父の指  
導で勉強し最難関中学を受験した  
実話です。ドラマの中で教えてもす

に忘れてしまう娘にいらだち、娘を責  
める父に対し、成績が伸びないのは記  
憶のメカニズムに一因があると解説す  
るシーンが有ります。この解説の中  
で使用されたのが「忘却曲線」です。

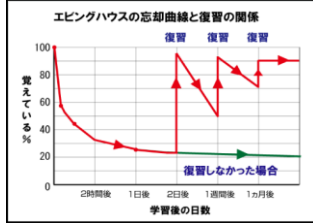
ドイツの心理  
学者、ヘルマン・エ  
ビングハウスは、  
記憶がどれくら  
いのスピードで  
忘れられていく  
かを実験し調べ  
ました。その結  
果をグラフ化し  
たのが「エビング  
ハウスの忘却曲  
線」です。(ゲラ  
フ1参照)

この実験から一日後には学習した  
内容の74%が忘れられてしまうとい  
う結果が出ました。この「忘却曲線」  
に復習した場合の記憶率を加えたも  
のがグラフ2です。学習内容が定着す  
るには反復して  
復習することが  
必要であること  
を示しています  
。また、グラフ  
の後半がフラ  
ットになっている  
ことから、一度  
定着すれば忘  
れにくくなるこ  
とが分かりま  
す。定着するまで頑張ることが大切  
です。

まもなく高校三年生になります。  
進路希望を実現しましょう。そのた  
めの近道はありません。地道に努力  
しましょう。『努力に勝る天才なし』で  
す。



グラフ1



グラフ2

## 進路指導部より

進路指導主事 松村重宏

### 平成29年度の進路概況について

この「豊高だより」の原稿執筆の段  
階では、国公立大・私立大の最終結  
果が発表されていないため、中間報  
告という形になりますが、平成29年  
度の進路状況を報告させていただきます。  
四年制大学<sup>281</sup>、短大<sup>26</sup>、専門  
学校(看護を含む)<sup>56</sup>、公務員<sup>1</sup>、就  
職<sup>4</sup>という状況です(いずれも、延べ合  
格数)。進学重視型の単位制高校に  
移行し、2回目の卒業生を送り出し  
ましたが、本年度の進路実績につい  
て特筆すべきは全てのMARCHE大学に  
一般受験で合格者が出ていること、  
国立大学の合格者があったことです。  
以前では指定校推薦がこうした大学  
に進学する主たる方法でしたが、新  
校となつてからは、一般受験で進路  
を実現しようとする雰囲気が出てき  
ました。進学校となるためには大きな  
前進だと思えます。受験に向け自習  
室等で放課後に学習する三年次生  
が多く見られ、それぞれの生徒がお  
互いを励みにしていたと思われま  
す。ここ数年の卒業記念品として、自習  
机を寄付していただいています。こ  
の自習机が有効に活用されると思  
います。

入試方法について、近年、推薦やA  
O入試が重視されていますが、MAR  
CHE以上の大学では一般受験が9割  
を超える状況が続いています。一方  
日東駒専を中心にAOや推薦入試が  
増加の傾向にあると言われています。  
四大進学についての本校における合  
格者の受験形態の様子はAO<sup>54</sup>、公

募制推薦<sup>20</sup>という状況でした。昨年  
度と比較して、本年度はAO受験の  
増加が挙げられます。AO入試は進  
路先とのミスマッチを避けたり、進路  
目的の明確化という観点から重視さ  
れています。また、入試機会を増やす  
という意味も込められているのでは  
ないでしょうか。そうした受験機会を増  
やす目的で、本校からも多くの生徒  
が受験をしました。最近の入試では  
日程の細分化が多くなり、一つの受  
験パターンでの定員がそれほど多くは  
ありません。最盛期のAO入試では倍  
率が10倍近くになることもあります。  
こうした現実を踏まえ、「入試がうま  
くないかない」ことも多くなります。そ  
うしたことで心が折れてしまう生徒  
も少なからず見受けられました。  
また、今年も一般受験で進路を勝  
ち取った生徒が多くありました。

### 一年間を振り返ること

保護者会等の機会では進路実現  
にはPDCAサイクルが大切であるこ  
とをお伝えしてきました。P:学習計  
画を立て、D:学習をして、C:模試等  
で定着力をチェックし、A:結果を分  
析して目標達成のための方策を探る  
(振り返り)という一連の流れが、進路  
実現のためにはとても重要になりま  
す。年度末を迎え、最後の「A」を完  
結する時期になりました。自分自身  
の進路を考える上で、しっかりと一年  
間を振り返り、自分自身を分析する  
ことが進路実現への近道となります。

※裏面に『平成二十八年度学校自  
己評価システムシート』を掲載しま  
した。御覧ください。

# 平成28年度 学校自己評価システムシート (県立豊岡高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、豊かな人間性を培う進学校
--------	---------------------

重点目標	1 学力向上に向け、授業改善に取り組む 2 個々の生徒の進路希望に応じた指導を充実させる 3 基本的な生活習慣の改善を図るとともに生徒の自律性を養う 4 生徒会行事・部活動を充実させるとともに自主的な学校生活に取り組みさせる 5 開かれた学校づくりに取り組む
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業3ヶ条はほぼ達成できていることから、生徒が授業に臨む基本的姿勢は概ね良好な状況である。 さらなる学力向上に向け、授業、豊高ゼミ・進学講習、家庭学習において、積極的な学びの定着、自学自習の確立が課題である。	授業の予習、復習を含めた家庭学習の定着に取り組む。	①生徒の積極的な取り組みの機会を増やすため、学習活動を工夫する。 ②今未来手帳の積極的な活用により、家庭学習の時間の確保・定着を図る。 ③新たな授業3ヶ条を作成し、授業(学校生活)への積極的な学びの意識を育成する。	①生徒の積極的な取り組みを育成する授業改善ができたか。 ②今未来手帳を活用し、自己管理ができたか。 ③生徒にアピールする新たな授業3ヶ条を作成したか。	目標が概ね達成できた。 ①授業公開や研究授業を行い、授業改善の研修を実施することができた。 ②生徒全員に手帳を持たせ、学習時間の記録や学習状況の振り返りに活用させた。 ③新しい授業3ヶ条を作成し生徒に示した。	B	新しい授業3ヶ条が生徒の生活の中に定着するよう機会をとらえて示す必要がある。また、さらなる積極的な学びの定着を図ることが必要である。
2	大学のグローバル化や入試改革が進行する中で、生徒の進路実現に向けた確かな進路情報の収集と集約・共有が必要である。様々な入試制度に対応したきめ細やかな進路指導の充実が必要である。	進路実現へ向けて、継続的な指導を行う。	①具体的な進路イメージが持てる効果的なガイダンスを実施する。 ②計画的な進学講習を実施する。 ③研修会への参加や先進校視察等を通して、進路情報等を収集・整理し、進路指導に生かす。	①効果的なガイダンスが実施できたか。 ②進学講習等が計画的に実施できたか。 ③各種研修会や先進校視察により進路情報を収集し、指導に生かすことができたか。	目標がほぼ達成できた。 ①科目選択と連動したガイダンスを実施することができた。 ②計画的な進路補習が実施できた。外部講師の招聘を含め、計画的な小論文指導も実施できた。 ③高大接続研修会の実施や先進校視察と報告会を実施し学校全体で進路情報を共有した。また、保護者会等で進路情報を提供することができた。	A	入試改革が進行する中で、的確な進路情報の収集と集約・共有、ならびに整理された情報の発信に向けた継続的な取組が必要である。
3	各年次ともに落ち着いた学校生活を送ることができている一方で、数は少ないものの規範意識に欠ける生徒もおり、予断を許さない状況である。今後も継続的な指導が必要と考えている。	規範意識の向上に努める。	①登校指導時における年次の枠を越えた声かけを行う。 ②各種検査や点検における事前指導と事後指導の充実を図る。	①年次ごとに一定の基準に基づいた統一した指導が行われたか。 ②各項目において違反者が減少したか。	目標がほぼ達成できた。 ①登校指導や生徒指導部等での情報交換を基に年間を通じて統一した指導が実践できた。 ②各年次とも、概ね違反者数は減少傾向となった。	A	頭髪・服装に関して、登校時においては大変落ち着いた様子がある。一方で校内あるいは下校時などでは、不十分などところがあり(女子のスカート丈など)、まだまだ改善の余地がある。 現状打破のためには、生徒指導部や学級担任はもちろん教科担当や部活動顧問など学校全体で注意喚起の徹底を図ることが必要である。
4	新たな実行委員会組織による文化祭や球技大会がスタートする。これまで以上に生徒会部を中心とする教員の適切な支援が重要となる。文化祭や球技大会が新たな実行委員会組織により、円滑に実施されることが課題である。	新たな組織による文化祭や球技大会を成功させる。	①LHR や委員会での指導を通じて、新たな組織の運営を円滑に行う。 ②教員の指導体制の見直しを図る。	①新たな実行委員会組織が機能したか。 ②教員の指導体制の見直しが図れたか。	目標がほぼ達成できた。 ①2つの実行委員会を新たに立ち上げ、新組織で円滑に行事を運営することができた。 ②文化祭の役割分担等で、指導体制の見直しを行った。	A	実行委員会発足初年度と言うこともあり、解決すべき問題点が見られた。次年度は本年度の組織や指導体制をさらに充実させることが必要である。
5	中学校訪問などの地道な広報活動により、志願倍率も上昇し、豊岡高校に対する中学生や地域社会からの評価も高まった。安定した生徒募集に向け、全職員による広報活動体制の確立が課題である。	全職員による広報活動体制を確立する。	①全教職員の協力により、学校説明会等を開催する。 ②情報発信の量と質を高める。 ③多角的な手段により本校をPRする。	①全教職員が広報活動に参加できたか。 ②発信した情報の量と内容は適切であったか。 ③多角的な手段により広報活動が展開できたか。	目標がほぼ達成できた。 ①オープンキャンパスなどを全職員が協力して成功させた。 ②WEBを用いて適切な情報提供を行った。 ③中学校や塾に広報活動を行った。	A	今年からオープンキャンパスを学校全体の取り組みにするなど新しい豊岡高校の魅力を広報することができ、中学生や保護者から評価を得ることができた。次のステップとしてより成績上位の中学生が志願してくれるよう働きかけていくことが必要である。

学校関係者評価
実施日 平成29年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の質を高めるには職員研修が重要である。職員研修も教科内だけでなく、教科を超えた横断的な取組が今後益々求められていくことになる。</li> <li>・進路指導では、キャリア教育の視点が大切である。様々な研修会や先進校視察で進路情報を収集し、生徒の進路指導に有効に活用してもらいたい。</li> <li>・豊岡高校の生徒は礼儀正しく、とても落ち着いている。生徒指導面がかなり変わってきたと感じている。</li> <li>・文化祭・球技大会等で新たな実行委員会組織を立ち上げたのは生徒の自主性を育てることについてはとてもよい。今後も続けていくことが必要である。</li> <li>・オープンキャンパスやホームページへの関心は高い。生徒募集に有効である。。</li> <li>・学校行事以外にも生徒を中心に地域の行事に積極的に参加したのはよかった。地域密着型の学校として今後も豊岡高校をアピールして欲しい。</li> </ul>